

追加関連論文

(ステアロイル乳酸ナトリウム)

追 1. ステアリン酸カルシウムに係る食品健康影響評価の結果の通知について. 食品安全委員会. 府食第 795 号. (2004)

. . . P1

追 2. 厚生労働省発食安第0701016号におけるステアリン酸マグネシウム及びリン酸三マグネシウムに係る食品健康影響評価の通知について. 食品安全委員会. 府食第34号. (2003)

. . . P13

追 3. 薬事・食品衛生審議会部会報告. 第 5 回食品安全委員会資料 2. (2003)

. . . P15

追 4. 平成 13 年食品添加物研究会編. あなたが食べている食品添加物 総合版(本編版).

. . . P29

食品から摂取される乳酸（乳酸及びその塩類同ナトリウム塩、同カルシウム塩、同鉄塩）の一人あたりの平均の一日摂取量は、加工食品からの添加物としての摂取が主であると考えられ、1998 年から 1999 年の調査において加工食品から 649 mg、未加工食品から 527mg、合計 1,176 mg とされている。

1995～1996 年の生産流通調査方式では、一人あたりの平均一日摂取量は 98.1 mg と算定されている。マーケットバスケット方式と生産流通調査式による結果が大きく異なっているが、これは生産流通調査方式では未加工食品からの摂取を正確に考慮できないことによるものと考えられている。

追 5. Maekawa A, Matsushima Y, Onodera H, Shibutani M, Yoshida J, Kodama Y et al. Long-Term Toxicity / Carcinogenicity Study of Calcium Lactate in F344 Rats. *Fd. Chem. Toxic.* (1991)29: 589-594.

. . . P31

6 週齢の F344 ラット(各群雌雄各 50 匹)に乳酸カルシウム (0、2.5、5.0% ; 0、1,250、2,500 mg/kg 体重/日) で 2 年間飲水投与し、その後 2 ヶ月間蒸留水を投与する試験が実施されている。2.5%以上の投与群の雌雄で体重増加抑制が認められ、雌の 5%投与群では軽度な生存率の低下が認められた。血液・血液生化学的検査には投与に関連した変化は認められなかった。5%投与群の雌において腎臓重量が軽度増加し、病理組織学的検査において腎臓乳頭部カルシウム沈着が軽度増加した。乳酸カルシウムは、2 年間の飲水投与においては特段の

毒性、発がん性を有しないと考察された。

- 追6. 石館基, 滝澤行雄, 坂部美雄, 石崎睦雄, 渡辺重信, 館正知, 竹本和夫. I. 食品添加物の変異原性試験成績 (その9). トキシコロジー-フォーラム. (1988)11: 663-669.

... P37

乳酸カリウムについて、枯草菌(*Bacillus subtilis*) M45 (Rec-)及び野性株 H17 (Rec+)を用いた Rec-assay (最高濃度 20 mg/disk) では、S9mixの有無にかかわらず、陰性であった。

チャイニーズ・ハムスター培養細胞株(CHL)を用いた染色体異常試験 (0.75、1.5、3.0 mg/ml) が実施されており、S9 mix非存在下での24時間及び48時間の連続処理法で、いずれも陰性であった。

- 追7. 祖父尼俊雄, 林真, 松岡厚子. 染色体異常試験データ. 染色体異常試験データ集, 改訂 1998 年版 pp.300, 404, 459, Life-science Information Center.

... P45

乳酸カリウムについてCHLを用いた染色体異常試験 (0.75、1.5、3.0 mg/ml) が実施されており、S9 mix非存在下での24時間及び48時間の連続処理法で、いずれも陰性であった。

乳酸ナトリウムについて、CHLを用いた染色体異常試験 (500、1,000、2,000 µg/ml) が実施されており、S9 mix非存在下での24時間及び48時間の連続処理法で、いずれも陰性であった。

乳酸について、CHLを用いた染色体異常試験 (250、500、1,000 µg/mL) では、S9 mix非存在下で24時間及び48時間の連続処理法で行われており、いずれも陰性であった。

- 追8. 石館基, 祖父尼俊雄, 吉川国衛. I.食品添加物の変異原性試験成績 (その4). トキシコロジー-フォーラム. (1983)6: 671-678.

... P49

- 追9. Ishidate M, Jr Sofuni T, Yoshikawa K, Hayashi M, Nohmi T, Sawada M, Matsuoka A. Primary Mutagenicity Screening of Food Additives Currently Used in Japan. *Fd. Chem. Toxicol.* (1984)22: 623-636.

... P59

乳酸ナトリウムについて、細菌 (*S.typhimurium* TA94、TA98、TA100及びTA2637) を用いた復帰突然変異試験 (最高用量100,000 µg/plate) が実施されており、S9 mix 存在下及び非存在下で、いずれも陰性であった。

乳酸ナトリウムについて、CHLを用いた染色体異常試験 (500、1,000、2,000 µg/ml) が実施されており、S9 mix非存在下での24時間及び48時間の連続処理法で、いずれも陰性であった。

追 10. 石館基, 能美健彦, 松井道子. 微生物を用いる変異原性試験データ. 微生物を用いる変異原性試験データ集. Life-science Information Center, (1991): 334, 335, 498.

・ ・ ・ P73

乳酸ナトリウムについて、細菌 (*S. typhimurium* TA94、TA98、TA100) を用いた復帰突然変異試験 (5,000~50,000 $\mu\text{g}/\text{plate}$) が実施されており、S9 mix 存在下及び非存在下で、いずれも陰性であった。

追 11. 藤田博, 中野雅行, 佐々木美枝子. *Salmonella typhimurium* TA97, TA102 を用いた食品添加物の変異原性試験 (第 3 報) . 東京衛研年報 (Ann. Rep. Tokyo Metr. Res. Lab. P.H.). (1988)39: 343-350.

・ ・ ・ P77

乳酸カルシウムについて、細菌 (*S. typhimurium* TA97及びTA102) を用いた復帰突然変異試験 (最高用量10,000 $\mu\text{g}/\text{plate}$) が実施されており、S9 mix 存在下及び非存在下で、いずれも陰性であった。